

番	郡市	市立	学校名	公開の仕方	公開開始時期(月)	公開担当者	テスト後の配信データ(データ校との比較折れ線グラフ(結果), 結果分析, 学習指導改善の手引き, 指導案)をどのように活用するか。(アイデア)	今年度の児童の実態分析と目指す子ども	取組の概要(どのようなことに, どのように取り組むか)
1	上越	上越市	春日新田小学校	イ	2029年3月	寺島元子	<p>昨年度の学習指導改善調査の分析結果から、本校児童の課題を明確にするとともに、直江津東中学校における学力実態と課題を情報共有し、これを基に、今年度重点的に研究する教科を算数科数量関係領域に決定する。</p> <p>夏休みには、各学年で、今年度の学習指導改善調査の分析結果を基に1学期の実践を振り返り、有効だった指導法や授業形態を検討し、2学期以降の授業改善に役立てる。さらに、これを、テスト後の配信データとともに、授業公開(11月22日)に向けた単元・授業づくりに生かす。</p>	<p>昨年度の学習指導改善調査の分析結果から、表現力に課題があるという本校児童の実態が明らかとなった。国・算・理の3教科ともに、考えはもつが適切に表現できないという傾向がある。特に算数では、正解は出せてもその過程を筋道立てて説明することができない、算数用語を適切に用いて表現することが難しい、という実態が顕著に見られた。そこで、今年度は、「考えをまとめ、進んで表現する子どもの育成」を目指して研修を進めることとする。</p>	<p>本校児童の実態、及び直江津東中学校の学力課題を踏まえ、今年度は算数科数量関係の指導に重点を置き、研修を進めることとする。</p> <p>学習指導改善調査協力校として、全学年が学年共同で重点単元の授業づくりを行い、11月22日に授業公開を行う。これに向けて、1学期中に全学年が学年内での授業公開を行い、ここでの成果と課題を重点単元の授業づくりに生かしていく。</p>
2	上越	上越市	戸野目小学校	イ	1月	酒井宏基	<ul style="list-style-type: none"> ・データ校の結果と自校の結果とを比較し、児童の実態を把握する。 ・結果分析をし、現時点での児童の課題を明確にする。 ・学習指導改善の手引きを参考にしながら、改善の方策を立てる。 ・自校の児童の実態に合わせて、指導の手立てを工夫し、授業改善を図る。 	<p>【児童の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な問題は比較的できている。 ・読み取る力が不十分で、問題場面を正しく把握できずに間違えたり、問題を解くのを諦めたりする子が多い。 ・解き方を説明する問題では、適切な言葉が用いられず、表現しきれしていない。 <p>【目指す子ども】</p> <p>問題場面を正しく把握し、視覚的に捉える子ども</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○算数科を研究教科として、実践研究に取り組む。 ○全職員で自校の児童の課題を共通理解し、授業の改善策を話し合う。 ○説明する時に必要な言葉や話型を指導し、表現力の向上に努める。 ○子どもがつまづきやすい問題を把握し、職員間で指導方法の情報交換をしながら、より分かりやすい指導を工夫する。 ○問題内容を正しく理解するために、線、メモ、画像、図、表、動画などを用いて、視覚的に捉えさせる習慣を付ける。
2	柏崎・刈羽	刈羽郡	刈羽小学校	自校のHPに公開	2017年1月	本田正樹	<p>○夏季休業中に全職員で、採点・分析を行う。その結果と県平均とを比較しながら、成果と課題を共有し、授業改善に生かす。</p>	<p><児童の実態></p> <p>○昨年度実施したNRTや学習指導改善調査、全国学力学習状況調査の結果から、基礎的な学力は身に付いてきている。しかし、その力をつかって表現したり、活用したりする力が不十分である。</p> <p><目指す子ども></p> <p>○「自立した学び」を研修のテーマに設定し、目的や課題をもち、解決方法や表現方法を工夫しながら、仲間とのかかわりの中で学びを深めていく児童の育成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の研修計画に「私の授業改善重点目標」を示し、日々の授業改善に努める。 ○担任に限らず、学級に関わる全職員が授業を公開する。外部講師を招聘し、指導を今後生かす。児童が自らの学びを確認できるまとめと振り返りを盛り込む。 ○NRTやWeb配信集計システムを積極的に活用することで、学習内容の定着状況を把握し、学習課題を明確にする。
3	糸魚川	糸魚川市立	大和川小	公開校					

4	妙高	妙高市立	新井北小学校	(イ)	3月	渡辺修司	<p>自校での採点結果と配信データを比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率が落ち込んでいる問題について重点的に指導していく。 ・成果と課題を確認し、学習指導改善の手引きを参考にし、授業改善を図る。 	<p>○学習指導改善調査では、3教科ともに県平均並みであった。</p> <p>○「考えながら聞き取る力」「相手や目的に応じて話す力」が弱いことが課題である。</p> <p>○目指す子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく聞き、自分の思いや考えをはっきり話そうとする子ども 	<p>○日常の授業での話し合い活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明確にして、「聞く・話す活動」の内容や形態を工夫する。 ・ねらいに基づく「聞く・話す視点」を示して、振り返りの時間を設ける。 <p>○基礎的な学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のユニバーサルデザイン化を一層進める。
5	長岡・三島	長岡市立	関原小学校	ア	9月	細貝泰子	<ul style="list-style-type: none"> ・配信された手引きや指導案を各学年に配付し、実際の指導の中で活用する。 ・結果分析を行い、当校の実態を把握する。その際、県平均やデータ校と比較し、当校の課題を明確にする。 	<p><児童の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力指導改善調査、全国学力調査の結果を全国平均や県平均と比べると、難しいと感じた問題に直面した時にすぐに諦めてしまう傾向がある。特にB問題の無答率が高いことから、問題が複雑になるほど、すぐに諦めてしまう。記述式問題に対する苦手意識が強い。 ・学習に対する意欲は少しずつ上がってはきているが、授業態度は受け身の姿勢が目立つ。与えられた課題に対しては取り組むが、進んで学習していこうとする意識が弱い。 <p><目指す子ども></p> <p>主体的に取り組み、協働的に学ぶ子</p>	<p>児童の主体的かつ、協働的に学ぶ姿を、ペア学習やグループ学習などで児童同士が関わりを多くもたせる授業を設定していく中で考え、より効果がある方策を探っていく。</p> <p>(1)児童同士の「関わり」をキーワードに、年1回ずつ授業公開を行う。</p> <p>(2)学力向上のための具体策</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学習規律の徹底(全校統一で年度当初から徹底する。) ②学級集団作り 関わり合いの授業の基盤をつくる。 ③思考力・判断力・表現力の育成 授業の中で、自分の考えを言葉で説明したり話し合いの場面を多く設定したりするなど周りと関わり合う場面を設定したり、ノートに自分の言葉でまとめていく活動を多く取り入れていく。 ④モジュールの有効活用 ⑤全校テストの実施 ⑥Web配信問題の実施、結果分析、復習、補充指導 ⑦家庭学習への取組推進
5	長岡・三島	長岡市立	栃尾南小学校	公開校					
6	三条	三条市立	裏館小学校	(イ)	3月	外山高宏	<ul style="list-style-type: none"> ・結果から、誤答の多い問題をピックアップし、課題を明確にする。 ・学習指導改善の手引きを参考に、課題克服のための授業改善に生かす。 	<p>児童の実態</p> <p>「あてはめ」による課題解決ができると、「分かった」と思ってしまう、学習することを終わらせてしまうため、何を「あてはめ」たらよいか、すぐには分からない問題に対し、解決に必要な知識や技能を持ち出すことができない。</p> <p>目指す子ども</p> <p>学級全体で協力し、習得した知識や技能を活用して課題解決のためのアイデアを出す子ども</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子どもの姿を具現化するために必要な支持的風土を日頃から「学級力」と「裏館式ハンドサイン」の取組により培っていく。 ・教材の提示の仕方や学習課題の設定など、各教員が自分の授業の良さを把握し、それをより生かした形で工夫を行い、「教師が輝き、子どもが輝く」授業をモットーに授業力向上に挑む。
7	小千谷	小千谷市立	千田小学校	(イ)	3月	小船井明美	<p>配信データと比較して、正答率が落ち込んでいる問題について重点的に指導をしていく。</p> <p>誤答を分析して身に付けたい力を明確にし、職員研修において授業改善の方向を共有していく。</p>	<p>アンケートでは、「授業が分かる」と回答した子どもが90%を超えている。また、前年度90%を下回っていた「授業が楽しい」とした子どもが92.3%となった。学力検査で、国語・算数とも全国平均に満たない学年があったこと、関心・意欲・態度の得点率が全国平均を下回っていたことが課題となっている。</p> <p>研究主題を「分かる喜び、学ぶ楽しさ」とした。学ぶ楽しさとは何かを再考し、子どもの思考を深める授業づくりを目指す。</p>	<p>授業チェックリストで自身の授業を自己評価する。</p> <p><公開授業></p> <p>「子どもの思考を十分深める」ための①場の設定②発問③言語活動について研究を続ける。</p> <p>授業改善のポイントや手引きを参考に授業を行う。</p> <p>学級担任が1回ずつ授業公開、授業分析を行う。</p> <p><月例テスト、Web配信集計システム活用></p> <p>定着状況の継続的な把握、授業法の見直しを図る。</p> <p>低学年は担任作成の国語・算数テストを実施、基礎・基本の定着を図る。中高学年はWeb配信問題計画を基に計画的に復習を行う。その際、間違えやすい問題を把握し、指導に生かす。</p> <p><学級経営></p> <p>いごちのよい安心して過ごすことができる学級の基盤として、Q-Uの結果を学級経営に生かす。</p>

8	加茂	加茂市立 加茂小学校	(イ)	3月	笠原 崇	結果をもとに、自校の課題を明らかにし授業改善に生かす。 ①「加茂小データベース」の活用 授業改善に向けて取り組んだ実践の学習課題やワークシート等をデータベース化することで情報の共有を図り、次年度以降の実践に生かす。 ②「音読点検表」の活用 前年度までの知見が示されている音読点検表をもとに、国語の授業や朝学習で実践した音読の成果を入力してデータベース化し、情報の共有を図る。	自分の見方や考え方を文章や図などで表現する力に弱さが見られる。自分なりの納得解をつくり出し、思いや考えを伝え合って学びを深める子どもを目指す。	学習課題並びに言語活動によって子どもの覚える「自尊感情」と「自己有用感」を大切にしたい授業のありかたを追求する。 ①言語活動を活性化させる意図的・積極的な働き掛けを行う。 ②課題解決の過程に、友だちと協働して解決する学習を取り入れる。
9	十日町・中魚	十日町市立 松代小学校	ア	自校のHPに公開	佐藤弘(ホームページ) 島田紀子(研究主任)	職員研修でデータを比較しながら分析する。データ校の取組のホームページを参考に授業実践に生かす。	<児童の実態> 自分の考えはあるが、進んで伝えることが苦手な児童が多い。自己表現力や考えを伝え合って互いに学ぶ姿に課題がある。 <目指す子どもの姿> 自分の考えを明確にし、進んで話し合う子	①学習指導改善調査実施後、職員研修で採点と結果分析を行う。 ②結果分析を受けて授業改善の方策を立て2学期より授業改善に取り組む。 ③実践の報告を冬休みにまとめる。
9	十日町・中魚	十日町市立 十日町小学校	イ	3月	徳井 洋介	・6月上旬に検査を行い、中旬に全職員で採点を行い、誤答傾向を分析。 ・県平均と比較し、成果と課題を共有する。 ・共有したことを基に、授業改善を行う。	【児童の実態】 ・NRT学力検査では、学校全体の偏差値は、高い数値を維持している。国語では、言語事項は全学年定着している。その他は、学年毎に課題が違うため、実態に応じて「書くこと」「話すこと」「聞くこと」など、重点分野の指導を行っていく。算数では、全領域で全国平均を上回っている。 ・全国学力学習状況調査の結果、国語・算数とも、26年度より27年度がA問題は正答率が伸び、B問題は正答率が落ちた。母集団が変わっているため、一概に言えないが、全国平均を上回っていることから「かわり合い 考え抜く子ども」の育成に努めてきた成果だと考えられる。記述式回答の無答率の低さから、習得した知識・技能を積極的に活用して、課題に真摯に取り組もうとしている姿を見ることができる。 国語B無答率: 全国8.7% > 県6.2% > 当校1.8% 算数B無答率: 全国16.5% > 県11.3% > 当校5.3% しかし、算数のB問題で記述式正答率は約10%上回っているが、選択式、短答式の正答率は全国正答率を下回った。自分の思いだけで考えを進めるのではなく、友だちの考え方や方法を受け入れていくような話し合いや課題解決の場を大切にしていく。 【目指す子ども】 ・設定した課題を自分ごととしてとらえ、主体的に取り組む子ども ・周囲とともに協働性を発揮して、新たな課題に挑戦する子ども	○28年度研究主題「かわり合い 考え抜く子ども」を目指し、[アクティブ・ラーニングの手法を生かした「学びに向かう力」をはぐくむ授業]を副題に、授業研究を中核として日々の授業改善に取り組む。 ・アクティブ・ラーニングの三要素を念頭に授業を公開し、自分の授業を「省察」できる研修体制を構築する。 ・教職員各々が「私の取組」を作成・検討し、目の前の子どもたちに即した方法で、子どもが学ぶ意味を感じる授業に向けて、日々子どもの立場で授業を構想し、授業改善を図る。 ○公開授業による研修、教職員の見識を広げる研修の両輪で研修活動を推進する。教職員が、自身の授業や教育観を多面的に「省察」できる研修体制を作る。 ・指導案検討会、授業協議会、学力分析検討会など様々な意見交流場面で、ワールドカフェ形式を取り入れる。 ・各種学力調査の分析を基に、当校の子どもの資質・能力やそれを支える要素について幅広く意見交流する。 ・公開授業後、参観職員は参観アンケート、授業者は事後レポートを執筆し、次の授業改善に生かす体制をつくる。

10	見附	見附市立	今町小学校	(イ)	10月		<p>①結果の分析を踏まえて、成果と課題を校内で共有する。</p> <p>②結果をもとに、授業改善の方向を探り、校内研修に役立てていく。</p>	<p><今年度の児童の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題に一生懸命に取り組む。 ・筋道立てて説明する力が弱い。 <p><目指す子ども></p> <p>教材や人とかかわり合いながら、考えの根拠を明らかにして表現する子</p> <p>[具体的な姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材と向き合い、自分の考えに根拠をもつ。 ・自分の考えと友達の考えとの違いに気づき、伝え合うことができる。 ・図や式、資料、本文の叙述等と関連付けながら、順序よく自分の考えを伝える。 ・お互いの意見の良さや違いを認め合いながら、よりよいものは何かを追究する。 ・既存の知識と関係付けたり、意味付けをしたりして、学びを深める。 	<p>校内研修テーマ</p> <p>「思考力、表現力を高める授業づくり」</p> <p>(1)「学級化研修計画」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修主題、児童の実態をもとにテーマを決める。 ・テーマ実現の手立てや重点単元を決め、日々の授業改善に努める。 <p>(2) 学年部を母体とした組織的な研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日を学年研修日とし、授業改善や授業の悩み等を相談し合う。 ・学年部研修は、授業研や授業の評価、研修のまとめ等で開く。 <p>(3)基礎基本の定着・思考力を伸ばす「のびるタイム」の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日13:50～14:05までの15分間を当てる。 ・Webテストの過去問題やB学力を伸ばす問題を行う。
11	燕・西蒲	燕市立	分水北小学校	ア	2月	佐藤裕介	<ul style="list-style-type: none"> ・データ校との比較によって、重点的に指導すべき項目を明らかにする。 ・学習指導改善の手引きを印刷配布し、校内研修の課題設定や活用問題設定の参考にする。 ・指導案を印刷配布し、学習指導に生かすようにする。 	<p>相手に自分の考えを伝える意識や、自分の考えと比較して聞き取ろうとする意識を更に高める工夫が必要である。また、活用力を伸ばす視点での取組も必要である。</p> <p>ペアやグループで課題を解決したり、これまでに学んだ知識を想起・活用して、新たな課題を解決しようとする子どもを目指す。</p>	<p>◎「学び合い、活用する力を伸ばす児童の育成」を研修主題として校内研修を行う。</p> <p>【研修仮説】</p> <p>1単位時間の算数の授業において追究意欲をもたせる課題設定を工夫し、ペア・グループ活動を通して課題解決に取り組ませる。これにより、児童は学び合って考えを深め、これまでに学んだ知識を活用して新たな課題を解決しようとするであろう。</p>
12	魚沼	魚沼市立	井口小学校						
13	南魚沼	南魚沼市立	赤石小学校	県小教研HPに公開	3月	熊谷圭	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期休業中に職員で分担し、採点・結果分析を行う。 ・落ち込みが見られる問題・領域について全職員で共通理解し、学習指導改善の手引きを参考にしながら改善に向けた指導を行う。 	<p><児童の実態></p> <p>○ペアやグループ学習を進めてきたことで、分からないことを聞き合ったり、解決に向けて話し合ったりする力がつきつつある。</p> <p>△解決を目指して根気よく語ったり、多面的な考えを求めたりする意欲や経験が浅く、課題や問題を解決したいという達成感を味わうことが少ない。</p> <p><目指す子ども></p> <p>学習意欲の高まりが見られつつあるので、さらに思考を持続させ、解決に向かう努力を惜しまない児童の育成を目指したい。</p>	<p>研究主題「仲間とかかわり、よりよい考えを追究しようとする子の育成」を目指し、授業づくりの研究を行う。</p> <p>授業では、主題の「仲間とかかわり」から協動的な学び（＝学び合い）を目指す。協動的であるために、ペアやグループ学習を行い、かかわり合う中で分からなかったことが分かるように新たな考え方や見方を学び、その価値に気付くようにする。「よりよい考えを追究しようとする」ための手立てとして、考えるための手立て（＝思考ツール）を設け、具体的な展開や構想を構築して授業に臨む。</p> <p><研究の方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題・形態・手立て・まとめを明確にし、協動的に学ぶ姿を目指した授業実践（一人1公開授業） ○上記の内容を明確にした指導案を作成 ○子どもと共に教師も学び合う指導案検討・教材研究 ○子どもの学び方や変容を捉え、語り合う協議会の実施
14	新潟	新潟市立	巻北小学校	公開校					

15	新発田・北蒲	新発田市立	中浦小学校	(イ)	平成29年3月	川崎英樹	<ul style="list-style-type: none"> ・配信データと自校の結果を比較、分析をして、自校の学力の傾向を探る。 ・正答率が低い問題について、年間指導計画に印をつけて、重点的に指導する。 ・教員が問題を解き合い、児童の躓きの原因を探り、指導時の留意事項を探り、互いに学び合う。 	<p>初めて見るタイプの問題や複雑に感じる問題に対して、躊躇したりあきらめたりしてしまう傾向が見られる。基礎基本の定着と合わせて、活用力を伸ばす視点での取組が必要である。これまでに学んだ知識を想起・活用して、新たな課題を解決しようとする子どもを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①夏季休業中の実態把握・結果分析をいかして、全職員が2学期以降の「授業改善」に生かす。 ②子どもたちが主体的に「言語表現」をしたくなる学習活動や「読み取る力」を高める指導を実践する。 ③ ①と②を受けて、研推が中心となり、実践から得られた子どもの主体的な学びや基礎基本の定着を図るための指導法を職員研修で共通理解し、実践に生かす。
16	村上・岩船	村上市立	朝日みどり小学校	イ	12月	八藤後和男	<ul style="list-style-type: none"> ・配信データと自校の結果を比較・分析して、自校の学力の傾向を探る。 ・正答率が低い問題について、年間指導計画に印をつけて、重点的に指導する。 ・教員が問題を解き合い、児童のつまづきの原因を探り、指導時の留意事項を探り、互いに学び合う。 	<p>自分の考えをもつことができる児童が多く、基礎的な知識・技能の習得はよい。しかし、学習態度に受動的な部分がある。また、友達の考えを聞いて自分の考えを見直したり、友達と考えを交流し合いながら考えを深めたりすることが苦手である。これらのことから、主体的に学習課題に取り組もうとし、友達と関わり合って学習する児童を育てることが大切であると考えた。友達の考えを取り入れながら自分の考えをよりよしたり、自分の考えの根拠をより確かにしたりする児童を育てたい。</p>	<p>研究主題を「学び合うよさを感じ、学びを深める児童の育成」として、校内研修を行う。今年度は次の3つの視点から具体的な手立てを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①児童のもつ問題意識と本時のねらいがつながるように学習課題を設定する。 ②友達と答えや考え方を確かめ合うために学習形態を工夫する。 ③どの子の学びも深まるように、指名の順番を工夫したり児童同士の発言をつなげたりしながら全体で考えを比較検討する。
17	五泉	五泉市立	愛宕小学校	イ	H29・35	渡部武志	<p>配信データ、結果分析により、当該児童の定着が不十分な部分を明確化し、その部分を中心に個別指導や補充学習などを行う。また結果に関しては回覧し該当学年だけでなく、全職員で当校児童の実態を把握する。</p> <p>また学習指導改善の手引き、指導案等を随時活用できるように職員に紹介、周知する。</p>	<p>児童は与えられた課題に対してまじめに取り組むことができる。しかし、実際の授業では、考えがなかなかまとまらない、いい考えをもっていないもどう話していいのかわからず、思いや考えを積極的に表すことをためらう姿が見られる。そのため、ワークシートで自分の考えを明確にもたせたり、伝え合いの場を工夫したりしてきた。それらの手立てにより、グループの中や全体に向けて自信をもって発表したり説明したりする姿を見ることができた。</p> <p>昨年度末のNRT学力テストの結果では、全学年が全ての領域について全国比(=100)を上回り、今までの研究の成果が現れている。一方、「読むこと」領域において、学年の差が大きい傾向が見られた。特に、言葉に着目しながら文章を正確に読み取ることに弱さが見られる。また、他の領域の結果から、問題の意図を正確に読み取って答えることを苦手とする姿も見られる。</p> <p>以上の実態から、今年度は「言葉に着目し、叙述に即して正しく文章を読み取る力」の育成を目指す。</p>	<p>叙述に即して正しく文章を読み取る力をつけるための手立てのあり方を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習活動を工夫し、目的に応じて文章を読み取らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・単元構成の工夫 ・学習課題や発問の工夫 ○言葉や文章を根拠に考えさせ、正しく読み取らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる言葉や文章に着目させる工夫(キーワード、指示語、接続語など) ・読み取るポイントを明確にするワークシートの活用 ○語句の意味理解を確かにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・音読のさせ方の工夫 ・絵や具体物の活用 ・動作化による理解 ・辞書、図鑑等の活用 ・読書の奨励
18	阿賀野	阿賀野市立	安野小学校	(イ)	11月	羽田野謙一	<ul style="list-style-type: none"> ①データ校平均値と比較し、落ち込んでいる問題、領域について分析し、指導改善に関わる校内研修を行う。 ②改善の手引きを参考にし、「学び合い」を重点に置いた授業改善を行う。 	<p>NRT全校偏差値(国)50.8(算)51.9 ※全国平均並みであるが、5段階の子が少なく、1、2段階の子が多い。</p> <p>【目指す子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国語・算数のワークテストで全国平均を上回る子を65%以上にする。 ②「自分の考えを相手に伝えることができる」の児童アンケート、教師の見取りをともに80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内研修のテーマ【「分かった」「できた」と実感できる子どもの育成～学び合いを活かした活動を通して～】を中核に、授業研究を通して職員研修を深め、授業改善を進める。 ②学習指導改善調査の結果を分析・共通理解し、特に落ち込んでいる分野、領域、単元について、「研修の手引き」等を参考に、補充指導を行う。

19	佐渡	佐渡市立	両津小学校	ア	5月	小林尚子	<p>①データ校平均と比較し、落ち込んでいる問題、領域について分析をする。</p> <p>②分析したことを授業改善に生かす。</p> <p>③「学習指導改善の手引き」、「指導案」を参考にして研修する。</p>	<p><児童の実態> ○平成27年度学習指導改善調査の結果、国語で3学年、算数で2学年、理科で2学年、県の平均正答率を下回っていた。また、すべての教科で説明などの記述問題に無答が見られた。目的や意図に応じて自分の考えを書いたり、話したりする思考力・表現力を身に付けさせる必要がある。</p> <p><目指す子ども> ○他者とかかわりながら「◎問い・願い」をもち、かかわりながら解決していく子ども。 ○学習したことを振り返りまとめる活動において、自分の考えを書いたり、発表したりする子ども。</p>	<p><取組の概要> 研究主題「思考力・表現力の向上を目指して」、副題「かかわり合う授業を通して」とし、次のような取組を行う。 ①授業改善：かかわりを通して「◎問い・願い」を自分のもとしてとらえ、かかわりを通して意欲的に解決し、自己の活動を振り返って書いてまとめたり、発表したりする授業を、単元に3回以上実施する。 ・上記の場面のある授業公開を、一人1回年間研修計画に位置づけ実施する。 ・「教え、考えさせる授業」「習得、活用、探求」「言語活動の充実」の視点から「思考力・表現力」を習得させるための指導法の工夫をする。 ・「かかわり合う(話す・聞く・話し合う)」姿の明確化(子どもに分かるように具体化する) ・日常的に「書く」内容の充実を図る。 ②個別指導タイム：パワーアップタイムⅠ(毎週木曜)やパワーアップタイムⅡ(毎週月曜)において、地域ボランティアの協力を得ながら、個に応じた補充学習や発展学習に取り組む。 ③家庭学習習慣：家庭学習強調旬間を学期ごとに設定したり、家庭学習ファイルを活用したりして定着を図る。</p>
19	佐渡	佐渡市立	新穂小学校	公開校					
20	胎内	胎内市立	中条小学校	イ	H29.4	佐藤晋	<p>○授業改善プランの作成に活用する。 テスト問題や配信データを分析し、誤答・無答のある問題の傾向をとらえる。その傾向から、重点単元を設定し、活用する力を培う授業を構想する。 重点単元における教師の手立てを構想する際、「学習指導改善の手引き」や「指導案」を参考にする。</p>	<p><今年度の児童の実態分析> 昨年度のテストの結果は、どの学年においても、おおむね県の平均を上回っている。児童の傾向として、無答率よりも誤答率の値が大きくなっていることから、子どもは、問題解決に向かう働き掛けをしていることが分かる。 しかし、正答を導き出す問題解決に向かうことができていないので、問題文を正しく把握し、問題解決に必要な情報を選択し、活用して問題を解決する能力が、中条小学校の児童には必要であることとらえる。その活用を促すために、本校では、思考する方法を「比較・分類・因果関係・仮定・類推・序列」に定め、児童に身に付けさせていく。</p> <p><目指す子ども像> 学んだことや友達の考えなど、課題を解決するために必要な情報を関係付けて、より良い考えを創っていく子ども</p>	<p>(1)学年授業研究プラン テストの結果や結果分析を、学年授業研究プランを作成する際の材料とする。 4・5・6年については、配信データをもとにして、2学期以降の学習内容の中から重点単元を決め、授業改善をねらいとした学年授業研究プランを作成する。また、1・2・3年については、4・5・6年の配信データを参考にして、当該学年で習得すべき学習内容を分析し、その分析結果から重点単元を設定し、4・5・6年生と同様、授業改善をねらいとした学年授業研究プランを作成する。 (2)学年研究推進計画 学年授業研究プランに基づき、学年間で授業公開を行う。授業改善を図る教師の手立てについて、「授業のチェックリスト」を作成する。そのチェックリストを用いて、授業者・参観者は子どもの姿を見取り、評価する。そして、授業後、成果と課題を分析し、次学期や次年度に生かしていく。 (3)つばさっ子テスト(自作テスト) 上記の重点単元についての自作テストを作成し、学習内容の習得・達成状況を確認し、個別指導に生かす。</p>
21	東蒲	阿賀町立	上条小学校	イ		中山智美	<p>データ校の結果と自校の結果を比較し、差異の大きな問題を抽出し、分析を行う。その後分析結果をもとに補充指導を行う。</p>	<p>web配信テストや全国学力・学習調査の結果から、基礎的・基本的な学習の定着が図れている児童は多い。その一方で、応用・活用問題を苦手としている傾向がある。本校では、伝え合い活動の中で自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりすることで、「自分の考えを広げ・深める児童の育成」を目指す。</p>	<p>・全職員で丸つけを行う。 ・学級担任が誤答の多い問題を分析し、考えられる原因を考察する。 ・全職員で誤答の多い問題と考えられる原因の共通理解を図り、その単元に入る前に、授業を通じた改善策について検討する。</p>
21	東蒲	阿賀町立	西川小学校	ア		山口礼子	<p>・データ校との比較による小問分析を実施、昨年度の課題の変容を分析する。 ・職員研修時に、「授業改善のポイント」や「指導案」の視点を検討する。 ・阿賀町授業研究大会の改善の視点と合わせて学習指導改善を検討する。</p>	<p><平成27年度学習指導改善調査で課題となった能力> (国語)資料を根拠として意見を記述する力 (算数)テキスト(問題文・資料)を正しく読解したり、論理的に記述する力 (理科)実感を伴った概念の理解と、正しい理科用語の使用と論理的に記述する力</p>	<p>・毎月の校内授業研究では、自身の考えを広げ深める手立てとして、「児童間の交流」をどのように促進させるかを検討していく。 ・テキストの読解力、論理的な表現力をつけるために、昨年度後半に、放課後補充学習の内容を見直して全校体制で取り組んできた。今年度の全国学テや本改善調査の分析によって、有効な手立てを整理する。 ・基礎基本の定着、家庭学習習慣の形成に向けて、保護者との連携を工夫して推進する。</p>